

明 — みょう —

真宗大谷派 本明寺通信
東日本大震災
特別号

2011年4月11日発行



御遠忌テーマ 今、いのちがあなたを生きている



www.ji-n.net

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

今、いのちがあなたを生きている

真のよりどころを
求めて

三月十一日に発生しました東日本大震災により被災された皆様には、衷心よりお見舞い申し上げます。



東日本大震災

●地震発生

三月十一日午後二時四十六分、東北地方太平洋沖地震が発生。私は浅草のお寺で会議中。「揺れる？地震？」と思い、みんなで顔を見合わせた次の瞬間、今までにない強い揺れを感じた。しかも揺れている時間が長い。震源はどこかと思ひ、即座にケイタイを開く。宮城震度7。東京震度5弱。次の情報を求め、ケイタイを操作するが、混線しているせいか繋がらない。テレビをつけるが混乱している模様。大津波警報が出ている。暫らくすると・・・船が沿岸に乗り上げ、車が流され、津波に街がのまれていく。映像の凄まじさに言葉をなくす。

●本明寺の動き

会議は打ち切り。自転車で帰宅途中、何軒かの瓦が落下しているのを見る。電車が止まったのか、バスに行列ができていく。
帰宅後に各鉄道会社が終日運休を発表。おそらく帰宅困難者が出るだろう。何かできることはないかと考え、「帰宅困難者一時避難所」としてお寺を開放することに決める。
日が暮れた頃、街の様子を見て回る。車道は渋滞。駅や大通りの歩道は人でごった返している。ファミレスには行列。公園のベンチは全部埋まり、食事をしている人もいる。公園内の体育館を訪ねてみると、避難所として開放しているとのこと。

午後八時。テレビを設置し、温かいお茶などの準備を完了。お寺の前に一時避難所の看板を出し、大通りにあるお寿司屋さんにも頼み、案内と地図を張らしてもらった。

この日、お寺に立ち寄られた方は二名。二名とも徒歩での帰宅途中であった（市川市く横浜市、豊島区池袋く江戸川区平井）。食事を取られていないとのことで、お茶の他に、おにぎりを提供。一時間ほど休憩し出発された。

翌朝、JR運行が発表され、一時避難所を閉めた。

後日、お寺に立ち寄られた方よりメールを頂きました。

●本山の動き

○三月十二日に予定されていた「御遠忌オーピングセレモニー」を中止。

○三月十二日、本山職員被災地派遣。

○義捐金箱を設置

○「御遠忌第一期法要」（三月十九日く二十八日）を中止。替わって「被災者支援のつどい」を開催。

○別院・寺院教会及び諸施設への被災者一時受け入れ宗派窓口を開設。

●東京教区の動き

○被災地の情報収集と情報発信

○『メールニュース』の配信

○首都圏近郊の避難所の調査

○三月二十八日く三十日に四名が被災地（南三陸町・名取市）を視察。支援物資を届け、避難所やボランティアセンターを訪問。また、仙台教区の方々を中心に近隣教区の有志と初会合を行う。

○被災地ボランティア活動

- ① 四月十一日く十三日
- ② 四月二十日く二十二日
- ③ 四月二十五日く二十七日

●その他の動き

○仙台仏青による、お風呂設置

（仙台仏青お風呂プロジェクト／BOP）

○各教区で募金活動

●お寺に立ち寄られた方からのメール●

先日、震災時立ち寄らせていただきました横浜の〇〇と申します。

当日は勤務先の千葉縣市川市田尻より横浜へ向かって帰宅途中でした。

当日は寒くそろそろ足も痛くなりだしたところに御寺の張り紙を偶然見つけることができました。

お伺いしたところ、暖かく迎えていただきトイレを拝借し、暖を取らせていただき熱いお茶をいただきました。

初めて今回の地震の情報をテレビで見ることができ、今回の震災がいかに大きいものであったかを知らされました。

どこのコンビニにもパン、おにぎりは完売でもちろん夕食はとっておりませんでした。おにぎり、ソーセージを出していただき本当に心より温まることができました。

テレビの情報で、東京都は公共施設を帰宅困難者に開放していることを知り、お暇をさせていただきました。

近くの錦糸町駅前の体育館にお世話になり、朝私鉄が動いていることを確認し帰途につき無事に帰宅することができました。

この度は本当にありがとうございました。

また改めて御礼と思っておりますが、まずは失礼とは思いましたがメールでお礼をお伝えさせていただきました。

ありがとうございました。

(2011年3月13日受信)

三月二十八日～三十日、被災地（南三陸町、名取市）を視察してきました。視察した内容を同朋社会推進ネットワークが流している「メールニュース」にて報告しました。



被災地レポート

（以下、同朋ネット「メールニュース」【三月三十一日版】より）

☆被災地状況

（南三陸町、名取市）

この度の災害は地震そのものより、津波による被害が大きい。海より2km以上内陸から不法投棄のように瓦礫の山が続き、大破した車が折り重なり、船が横転している。沿岸部にかろうじて立っている建物の鉄骨は折れ曲がり、三階建ての建物の上には車が乗っている。

津波による被害は新聞やテレビなどで報道されている通り悲惨な状況であることは分っていたが、実際に被災地に立ってみると、想像以上の被害の大きさと津波の脅威を感じ、言葉をなくす。付近を

歩けば鍋が、靴の片方だけが、ぬいぐるみが、思い出の写真アルバムが：あらゆるものが無残に転がっている。

被災者は何千人、何万人という数字で報道されることが多いが、訪れた被災地には子ども、大人、お年寄り、それぞれ一人ひとりの生活がそこにあったことを感じずにはおれない。一人の人の死が、何万通りあるということを見失ってはならない。自衛隊や地域の消防団が遺体捜索を続けている。途方もなく広い荒れ地で・・・。

☆ボランティア

センターの様子

仙台の南にある名取市ボランティアセンターを訪問した。十八日にボランティアセンターが立ち上



がり、二十九日現在、県内ボランティア約二五〇人が登録をしている。主な作業は家の片付けである。名取市ではそのボランティアの需要と供給のバランスが取れているため、ボランティアの募集を県内に限っている。

宮城県は、ボランティアの募集を県外からというところもあるが、県内や市内に限っているところも多い。(ガソリン不足や自宅が近くであるとか、県人同士の親しみやすさなど)

ボランティアセンターの情報(作業内容、ボランティア募集など)は日々変わるので、最新の情報を確認したほうがよいだろう。

☆避難所の様子(名取市)

震災直後NPO、NGOが鍋などの調理器具などをもって入ったという。二十九日現在、避難所ごとに生活のルールができつつあり、被災者同士が生活の仕事分担をしている。それらの仕事を担っていることが生きがいになっている人もいるという。现阶段では外部の

人間が入って炊き出しをすることは、それまでの避難所のルールを壊してしまう可能性もあるので難しいと思う。

しかし、指定避難所以外の小さな避難所もあるため、そのような場所では炊き出しのニーズがあるのだという。避難所によってそのニーズは刻一刻と変化しているようだ。

☆救援物資について

一次物資(毛布、水、米など)は、ほとんどの避難所に行き届いている。(名取市情報)「毛布が不足」という情報が流れると全国各地からいつまでも毛布が届くという。有りがたいがその種分けに人が出がとられ、物資置き場がふさがるのだそう。不足情報はいつの

情報なのかをよく確認することが大切だ。

現在は二次物資（爪切りとか歯ブラシなど日常生活に戻るために必要な日用品・食品や服など）の要望が増えている。これらの要望は被災者によって異なり、また時間の経過と共に日々変化するので多岐にわたる物資の提供が必要であらう。

☆仙台仏青との初会合

地元でボランティア活動を担う仙台仏青の方々十名と初会合を行った。この打ち合わせは、東京（四人）の他に山形（四人）高山（一人）高岡（一人）福井（一人）からの参加もあった。総勢約二〇名。仙台仏青のメンバーは十六名。岩手県、宮城県、福島県の三県に

わたっている広範囲の教区である。全員が被災者とのこと。現在はガソリン不足かつ距離が広範囲にあるため、団体として動くことが難しい状況。

仙台仏青では、個人で行政の手



の届かない避難所に物資を届けている人や、避難所にドラム缶風呂を運び、入浴できるような活動をしている人々がおられる。被災者との交流を大切に行っている様子が伝わる。心から敬意を表したい。そのような活動を資金面で支援することも我々ができる大切なことだと感じた。

☆会議の中の声

- 仙台仏青という団体として何をしたらいいのかわからない。
- 現場にいて無力さを感じる。個人の活動だけでは限界を感じる。
- 一時、県外に避難をしたが、避難したことに罪悪感がいっぱいあった。
- 自分自身が行動をしてないと不

安である。

●被災者の声が届くまで、動き続けたい。

●被災地のために何かしたい。

●僧侶としての前に、ひとりの人として被災者と関わりたい。

●善為でもいい、まず動こう！！

あつい雰囲気があるところにあった。その空気を何らかの形で共有したい。孤立化させてはならないと感じた。

☆最後に

現段階では同朋Nとして仙台教区に出向き、炊き出しなどの活動をするのは難しそうだ。ボランティアセンターでは炊き出しのボランティアは募集しておらず、ガソリンが不足しているため調達が難しい面もある。しかし、指定避難

所以外のところでは、炊き出しをはじめ、様々な支援の必要があるという情報も聞いた。今後も情報収集をし、被災者の声を聞いてねいに聞きつつ、動いていきたい。

また仙台教区のボランティアは、仙台仏青が担うそうだが、現在他教区を受け入れるための準備段階である。仙台仏青に負担のかからない動きや、ともなる救援の動き、仙台仏青が活動しやすい支援をそれぞれが作っていくべきだと感じた。

私たちに今何が出来るのか。それは被災地や被災者のことを風化させないということだろう。時が経てば被災者への思いは風化してしまうもの。ご門徒や友達などに正確な情報を発信することによって風化を防げるのではないだろう

か。また自分自身の中の風化も防げるのだろうか。

被災地に行くことが私ができる全てではないと思う。自分が住んでいる地域の避難所を訪ねることもある。実際は、被災地に行ってもある。実際は、被災地に行ってもボランティアをすることしか頭になかったが、しかし、今回の震災では被災地の避難所の他にも、日本全国広範囲にわたって避難所が開かれている。まずは自分が住んでいる地域に避難所があるか、活動は出来るかなどを調べて見るのもいいかもしれない。

他にも今被災地に行かなくても私たちに出来ることはあるはずだ。「このようなことをした」「このよみなさんが思いつくことがあれば、同朋Nまで教えてください。」

三月二十九日より、江戸川区にあります瑞江火葬場（東京都瑞江葬儀所）にて、東日本大震災における犠牲者の火葬を行っております。

搬送されるご遺体の大部分が



東日本大震災 犠牲者火葬

身元不明の方ということを鑑み、東京都仏教連合会から東京都建設局公園緑地部にお問い合わせをし、瑞江火葬場正門付近に宗教者専用の祭壇を設け、被災地の手次寺に代わり、東京都の宗教者が簡易祭壇にてお参りできるようになっていました。

そこで四月七日、全日本仏教会に勤めている友人の声掛けにより、真宗大谷派東京教区有志十二名でお参りをいたしました。

東京都では、現在も希望する地元自治体から直接の申し込みを受け付け、都内の民営火葬場なども活用し、四月十一日より、一日一二〇体のご遺体を受け入れていきます。



被災地への思いを風化させない 被災者への思いを風化させない

(3月28日、29日 南三陸町、名取市)





◆真宗大谷派ボランティア活動と被災地情報◆

◆同朋ネット特設HP

<http://www1.ttcn.ne.jp/honmyouji/doubou-n>

◆東本願寺HP

<http://www.higashihonganji.or.jp/>

◆真宗大谷派ボランティア委員会ブログ

<http://ameblo.jp/v-saigai-otani/>

◆仙台仏青HP

<http://namaste.digick.jp/>

▼東日本大震災 募金のお願い▼

本明寺に「東日本大震災義捐金箱」設置しました。現在、集まった募金につきましては、「支援金」として、同朋Nもしくは仙台仏青のボランティア活動費として使わせていただく予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

あとがき

▼この度の震災を受け、これまでの私たちの歩み、そしてこれからの私たちの歩みが問われていることを深く考えます。また震災と共に「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」が勤まることに、震災を通して、宗祖からの呼びかけがあるように感じざるを得ません。逆縁ではありますが、この震災で受けた悲しみを転じ、最勝のご縁として本願念仏の教えを歩みたいと思えます。

発行 真宗大谷派 本明寺

副住職 本田 彰一（釋 彰一）

〒130-0012

東京都墨田区太平二・七・一

TEL 03-3623-1536

FAX 03-3623-1538

E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp

URL

<http://www1.ttcn.ne.jp/honmyouji/>